

～生命の水を求めて シルクロードのオアシスを旅する～

第6回中華人民共和国ウイグル自治区スタディーツアー

古来よりシルクロードの中継地として栄えたウイグルの地でも公益社団法人アジア協会アジア友の会のカウンターパートが農村地域の教育や医療環境の改善に向けて活動しています。急速な発展を遂げる都市部と昔ながらの生活を守る草原の人々。旅人達の心をも潤したオアシスでの出会いと文化を満喫しに行きませんか。「中国で最も暑く、最も寒く、最も乾燥し、最も風の強い地域がここにある」といわれる典型的内陸性気候のこの地域では、古来より「命の水」を大切に守り、知恵をしぼって後世に引き継いできました。自然と共生する生活の知恵、豊かな文化も体験できます。



日 程:2013年9月20日(金)～9月27日(金)7泊8日

参加費:246,000円(会員240,000円)

定 員:15名

企 画:公益社団法人アジア協会アジア友の会(JAFS)

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5F

Tel:06-6444-0587/Fax:06-6444-0581 <http://www.jafs.or.jp>

旅行取扱:(株)トラベル ファイブ ジャパン(受注型企画旅行)

観光庁長官登録旅行業823号 日本旅行業協会正会員 支援システム会員

〒541-0059 大阪市中央区博労町3丁目6番7号 御堂筋三都ビル

Tel:06-6253-0212/Fax:06-6253-0679

総合旅行業務取扱管理者 下村照美

締 切:2013年8月20日(火)

【2013 スケジュール】（予定）

日程	地名	現地時刻	交通機関	内容
9月20日 （金）	大阪 北京 ウルムチ	午前出発 夕方到着	飛行機	関西国際空港 集合 空路、ウルムチへ（北京経由） AFS ウイグルメンバーと夕食 到着後、ホテルへ （ホテル泊）
9月21日 （土）	ウルムチ	午前 午後	専用車	新疆ウイグル博物館 ウルムチ市内、バザール見学等 都会の生活体験 （ホテル泊）
9月22日 （日）	トルファン ピチャン	早朝 午後	専用車	ウルムチ出発 トルファン到着、見学 交河故城、高昌故城、火焰山、千仏洞等 ピチャンへ移動 民家の生活体験 （ホテル泊）
9月23日 （月）	ピチャン トルファン ウルムチ	午前 午後	専用車	トルファンへ移動 葡萄溝、果樹園 オアシスの水路（カレズ）を見学 陸路ウルムチへ （ホテル泊）
9月24日 （火）	ウルムチ カシュガル	午前	飛行機 専用車	空路カシュガルへ カシュガル観光 香妃墓 職人町 エティガル等 AFSカシュガルメンバーと夕食 文化交流 （ホテル泊）
9月25日 （水）	カシュガル	午前 午後	専用車	アナディアル病院 訪問 プロジェクト視察、ミーティング カシュガル観光 （ホテル泊）
9月26日 （木）	カシュガル ウルムチ	午前 午後	専用車 飛行機	空路ウルムチへ ショッピング他 AFS - ウイグルメンバーと夕食 （ホテル泊）
9月27日 （金）	ウルムチ 北京 大阪	午前出発 午後 夜到着	専用車 飛行機 飛行機	空港へ移動 空路大阪へ（北京経由） 関西国際空港 着後解散

※航空会社、現地受入先の諸事情で日程表の発着日、発着時間、交通機関、旅行経路等は変更が生じる場合があります。

＜実施要項＞

◆参加対象

- ① 心身共に健康な男女
- ② アジアの農村生活に馴染む事の出来る順応性ある方
- ③ 団体行動における協調性のある方

*申込み人数が5名に満たない場合、旅行催行が中止になる場合があります。ご了承下さい。

◆お申し込み方法

参加申込書に必要事項をご記入の上、パスポートのコピー・申込金（3万円）を添えて、事務局までご持参くださるか、または現金書留で事務局宛にお送りください。

◆参加費支払方法

申込金（3万円）は参加費用に含まれます。残金は出発日2週間前（または本会提示日）までに下記口座にお振込みまたは事務局までご持参ください。振込手数料はご負担願います。

◆キャンセルについて

- ① 申込書及び申込金の受領によって正式申し込みといたします。
- ② 参加者の都合による参加辞退の場合、キャンセル料は以下のように申し受けます。
 - ・出発30日～11日前に申し出の場合申込金（3万円）
 - ・出発10日～3日前申し出の場合、全参加費用の30%
 - ・出発2日～1日前申し出の場合、全参加費用の50%
 - ・出発当日以後に申し出の場合、全参加費用の100%

但し、キャンプの遂行が不可能な場合は全額をお返し致します。

◆注意事項

- ① 参加費用には受入れ団体への資金援助費用が一部含まれます。
- ② 自由行動中の費用は参加費用に含まれません。
- ③ パスポート取得、予防接種、燃油サーチャージ及び各国空港使用料、自由行動中の費用及びアルコールは参加費用に含まれませんので各自ご負担頂きます。
- ④ 中国入国には入国日+15日以上のパスポート残存有効期間が必要です。それ以前に有効期限の切れる方は、パスポートの再発行手続きをしてください。
- ⑤ 日程その他は、現地受け入れの都合などにより変更される場合がありますので、ご了承下さい。
- ⑥ 事前にオリエンテーションやしおり作成等のために集まりを持ちますので、ご協力をお願い致します。また、JAFSからスタッフが1～2名同行いたしますが、コーディネーターの役割であり、中身は参加者皆さんで作るものをご理解下さい。

☎お申し込み・お問い合わせ☎

公益社団法人アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14

肥後橋官報ビル5F

Tel : 06-6444-0587 / Fax : 06-6444-0581

<http://www.jafs.or.jp> E-mail:asia@jafs.or.jp

銀行口座（普通預金）

銀行名：三菱東京UFJ銀行 大阪中央支店

口座番号：普通 1968711

口座名：公益社団法人アジア協会アジア友の会

代表 はぎお せんり
萩尾 千里



◆公益社団法人アジア協会アジア友の会

Japan Asian Association & Asian Friendship Society

公益社団法人アジア協会アジア友の会は、アジアの人々のネットワークによる国際民間協力団体（NGO—Non Governmental Organization）です。生命にとって最も大切な水、飲料水の欠乏が深刻なアジアに井戸を贈る運動として 1979 年に活動がスタートしました。

現在、それぞれの地域に見合った支援活動をよりきめ細かに行うために、アジア 18 ヶ国に、60 ヶ所の現地提携団体のネットワークを形成し、その中央事務所を大阪においています。

このアジアの草の根のネットワークを通して、アジアの人々の知恵と善意を結集し、社会開発や人々の生活の改善、福祉の向上等、人々との『理解と協力と連帯』を目指して活動しています。安全な飲料水（井戸）供給のほか、植林、教育、生活向上などの様々な自立開発協力事業、各国ボランティア団体の育成、国際交流活動（ワークキャンプ等）の推進、国際理解教育、各種文化事業、また地球の自然環境保全活動を主たる事業として行っています。

会員の方々が情熱的に目的の実現に向けて取り組むことにより、活動の輪が一層広がり、より望ましい日本及び国際社会作りに貢献していくことに市民が一丸となっていくことを目的としています。



◆アジア協会アジア友の会のワークキャンプ・スタディーツアーとは・・・

公益社団法人アジア協会アジア友の会は、1981年に第一回インドワークキャンプを実施して以来、アジアの各地で、現地プロジェクトを支援するワークキャンプ・スタディーツアーを行ってきました。その間、4300名を越える多くの若者たちがアジアの大地で汗を流し、異文化交流の貴重な体験をしてきました。また80年代後半からは、比較的熟年世代や女性の積極的な参加が見られるようになってきました。しかし残念ながら、その実態は参加者以外の方にわかりにくく、なにやら楽しそうだという雰囲気しか伝わってこないことが多いようです。また、ワークキャンプの意義の理解もさまざまです。参加者のなかには「現地の人々に何かしてあげたい」、あるいは「労働貢献をしてくるのだ」と意気込んで乗り込む人もいますし、また一般的にもそのように理解されています。しかし、電気水道完備の快適な生活をしてきた私達に、実際に現地で出来ることはわずかです。インドやその他の発展途上国には、機械も資材も技術もないと思って、そのような認識の延長でワークキャンプを考える人もいます。

しかし実際には、その土地に見合った資材、技術、人材があり、現地では何かのプロジェクトを実施するにあたって必ずしもワークキャンプを必要としているわけではないという現実に直面します。更には、現地で大げさなセシモニーやお客扱いを受けて、一体なんのために自分は来たのだろうか戸惑うことにもなるわけです。では、一体何のためにワークキャンプをするのでしょうか？ ワークキャンプは現地に迷惑をかけているだけではないのでしょうか？ 現地と日本側双方にとって有意義な協力のあり方は何なのでしょう？ 今日、人々の間に汗を流して何らかの国際貢献をしてみたいとの気持ちが高まっているなかで、その一つの方法と機会を提供してきたワークキャンプ・スタディーツアーも、その意義や内実について理解を広めていきたいものです。（社）アジア協会アジア友の会は今後ともワークキャンプ・スタディーツアーを行っていきます。しかしそれは、セットツアーではありません。いわば素材を提供しているだけの場合もあるかもしれません。ですから、参加者自身の関わり方で有意義なものとも無意味なものともなりうるのです。そして現地の実状を学び、日本で生活を振り返った者にとって、本当の国際交流や貢献は、むしろ日本に帰ってから始まります。